

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0790300099		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「エスポワール」		
所在地	〒963-0201福島県郡山市大槻町字人形垣東9-1 (電話) 024-962-9371		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年2月21日	評価確定日	平成21年4月6日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 6.55人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	81,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	74歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人 金森和心会 針生ヶ丘病院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、全国展開の医療福祉法人グループの傘下であり、小規模多機能型居宅介護事業所に併設されている。事業所の運営やケアについては、法人のバックアップにより、ノウハウを活かした取り組みが行なわれており、利用者の表情も穏やかで落ち着いた生活を過ごしている。地域のボランティアも積極的に受け入れており、地区の中学生がボランティアで合唱を披露してくれた際には、元教員の利用者の指揮により、中学生と利用者、職員が一体となった合唱シーンは、感動的なエピソードとなっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員が日頃のケアを振り返りながらそれぞれ各自で行った。全項目の自己評価を行うことによって、評価の意義を認識し、サービスの質の向上に役立っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 開設時より定期的に2ヶ月に1度併設の小規模多機能事業所と合同で開催している。内容も事業所の報告のほかに災害対策や地域の行事への参加等協議されている。また、利用者家族には毎回運営推進会議の案内をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会は多く、ほとんど毎日訪れる家族もあり、最低でも月2回は家族の面会がある。面会時や運営推進会議で家族の意見を把握することに努めており、出された意見は職員会議で話し合いまた、法人に報告し運営に反映させる体制になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、運営推進委員の協力を得て町内会に広報誌を定期的に回覧してもらい事業所の情報発信をしている。また、地域の行事に参加するなど徐々に交流が増えてきている。今後は地域住民に対して事業所の見学会や介護相談等の企画を検討しているので、事業所からの情報を広く発信してさらに地域に根ざした事業所となるよう努められることが望まれる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほかに地域密着型サービスを踏まえたグループホームの理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に掲示しており、管理者はカンファレンスや職員会議等で全職員に理念を話し理念に基づいたケアの実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、定期的に広報誌を回覧してもらったり、地域の行事に参加し交流している。ボランティアの受入等も積極的に行っている。地域住民に対して事業所の見学会や介護相談会等を検討している。		今後さらに事業所の情報を発信し、地域に根ざした事業所となるよう努められることを望む。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義を全職員に伝え、自己評価を全職員がそれぞれ日頃のケアを振り返りながら実施した。今後は外部評価の結果を踏まえ、改善に努めることにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的開催している。委員からは災害対策や地域の行事等の意見が出され、運営に反映させている。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への定期的な連絡は、2ヶ月に1度発行の広報誌とともに生活状況を担当者が書き、送付している。利用者の状態に変化があった場合には随時報告しており、面会時には生活状況報告と小遣いの出納帳を確認してもらっている。毎月の請求書は法人から発送している。		家族への生活状況等報告については控えを保存されると良いと思われる。また、小遣い帳の確認には署名と確認日を記入されることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は多く、ほとんど毎日訪れる家族もあり、最低でも月2回は家族の面会がある。面会時や運営推進会議では家族の意見の把握に努めており、出された意見は職員会議で話し合い、法人に報告し運営に反映させる体制になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は結婚退職のみであり退職時に利用者に説明し、利用者みんなに祝福されての退職であった。職員の異動については引継ぎの時間を十分にとるなどして利用者の動揺を少なくするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会のみならず外部研修会にも順番で参加している。また、資格取得には法人内で特別講習等の支援があり、資格取得後は待遇に反映させる体制になっている。また、全職員が各自上期・下期の目標を掲げ、年2回の評価を受け目標実現のため自己研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所との交流の他に福島県認知症グループホーム連絡協議会の研修会に参加し交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	元華道教授の方には季節のお花の活け方等を習ったり、料理・編物・習字・畑作業等利用者の得意なことを習っている。利用者から教えられることが多くある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に家族等から収集した情報を元に、日常の生活のなかで利用者の思いや意向の把握に努め、利用者本位の生活ができるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日頃の状況把握と、面会時等に聞き取りした家族の希望や意見及び月に一度のカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に援助内容の評価を行い、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態に変化が生じた場合は、対応を関係者と話し合い新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医に受診しており、受診には家族が対応している。受診結果は家族に報告し、情報の共有をしている。往診の必要な利用者にはかかりつけ医の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた事業所の方針を作成しており、入居時に利用者・家族に説明し、同意書等により意向を把握している。		開設して日も浅いのと重度化した利用者がないということもあるが、職員間で勉強会等を実施され、ターミナルケアの実践に向けた取り組みをされることが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員全員がプライバシーの保護について理解し、利用者への言葉かけや聞き取りには気配りをし、個人の尊厳に配慮した対応をしている。個人の記録ファイル等の取り扱いも厳密に行い秘密保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や意向を毎日確認し、散歩や買い物などその日の状況にあった支援をしている。また、聞き取りした希望は「必ずかなえます」を合言葉に状況や時期を相談しながら実施しており、昔よく行った思い出の場所やお店に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が積極的に食事の準備や片づけを手伝っており、利用者の声かけで食事をいただき、利用者と職員が和やかに会話しながらの食事の時間となっている。体調のよくない利用者には、利用者の部屋で職員が声をかけながら一緒に食事をとるなどそれぞれの状況に応じた支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、体調や状況に合わせた入浴の支援をしており、入浴剤を使用したり利用者同士での入浴も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の元の職業や趣味、得意なことを活かし、元警察官の利用者には毎日の施錠確認をお願いしたり、お花を活けてもらったりとそれぞれの役割や楽しみを活かした支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望により個別のドライブや買い物、紅葉狩りや利用者宅への柿とりや思い出の場所への外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を職員全員が理解し日中居室・玄関とも施錠していない。現在のところ外出したがる利用者も無く、外出をした場合は職員が付き添うこととしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	8月に1回目の火災訓練を実施し、2回目の火災訓練は消防署の協力を得て3月に実施予定となっている。避難訓練は火災や地震を想定して実施している。運営推進会議を通じ地域の消防団との連携を検討中である。災害時の食料品・飲料水の備蓄もしており、食料品等の必要なものはリュックに入れてありすぐに持ち出せる様工夫している。	○	グループホームは2Fにあり災害時の避難には困難も予想される。日頃からいろいろな場面を想定し(特に夜間)どんな場合でも職員がすぐに対応できるよう訓練するとともに、地域の住民の協力が得られるよう、より一層の働きかけを行い連絡体制を確立されることが望ましい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー管理されており、利用者一人ひとりの毎日の食事量や水分摂取量を介護記録に記入している。定期的な体重測定も行って健康管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室をはさんで中央に共有空間があり、中央にテーブルとイスが配置され明るく広々としたスペースとなっている。季節の花が活けられており、壁には行事の写真などが飾られ季節を感じられるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド・タンス・クローゼットが設置されており、利用者は馴染みの寝具・テレビ・小物や仏壇等を持ち込み、それぞれ居心地良く過ごしている。		

※  は、重点項目。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム  
「健康倶楽部郡山 エスポワール」

記入担当者名 中川 由美

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。